

(一般社団法人) 日本樹木医会岡山県支部会報

『樹来 July』

第3号 (平成28年7月)



【目次】

1. 平成28年度事業予定
 2. 平成27年度事業報告
 3. 新規樹木医の紹介
 4. 岡山県支部の実績報告
 5. 会員からの投稿
 6. 連載
 7. 会員名簿および賛助会員名簿
 8. 編集後記
-

1. 平成28年度事業予定

岡山県支部の研修会として、「国富士手のサクラ」「後楽園のムクノキ」の治療・観察研修会、また中国地区の研修会として倉敷自然史博物館学芸員 狩山俊悟を講師に迎え、研修会を行います。

2. 平成27年度事業報告

- | | |
|----------------|----------------------|
| (1)平成27年 5月10日 | 岡山県支部総会の開催 |
| (2)平成27年 8月22日 | 後楽園外周遊歩道エノキ調査 |
| (3)平成27年10月24日 | 「岡山市緑化推進フェア2015」への参加 |
| (4)平成28年 4月24日 | 岡山県支部研修観察会実施 |

3. 岡山県支部の実施報告

(1)後楽園外周遊歩道エノキ調査

後楽園西川遊歩道において、エノキ（樹高15m、幹周197cm、推定樹齢250年）の生木主枝（長さ約8m、直径約20cm）が強風による落枝事故が発生した。原因と今後の対策を検討するため、支部会員11名で調査を行った。破断箇所は心材腐朽菌が侵入しており、当該樹木は葉量が少なく健全な樹木と比べ水揚げ量が少なく、材の粘りの低下が考えられた。そこに、強風で外部からの応力が加わり破断したと結論付けた。今回のように外観に異常がない枝が折れることの予見は非常に困難であるが、小さな異常を見逃さないため定期的な点検・診断を行い、腐朽菌の侵入を防ぐため正しい剪定等を行う。また、ケーブリング等による予防策を提案した。

(2)相原公園(ソメイヨシノ)樹勢回復事業の調査報告

岡山県井原市の相原公園（嫁入らず観音参道）におけるソメイヨシノの樹勢低下が進行しており、井原市より樹勢回復事業の委託を受け、平成26年4月から6月にかけて岡山県支部の監理・監督のもと、土壤改良・施肥・剪定等の治療を行った。その後の生育状況や経過について調査を平成28年4月に行い、治療木については開花状況・枝の伸張状況ともに良好であり今後も継続的に調査及び治療を実施していく予定である。



4. 新規樹木医の紹介

(1)重廣 一成

このたび（一社）日本樹木医会岡山県支部に入会しました。

25期生の重廣 一成(シゲヒロ カズシゲ)と申します。

現在、赤磐市シルバー人材センターの会員として、剪定班に在籍しており剪定や庭の管理で草取り、施肥、防除や庭木の植え替え、支柱の取り付け(又、修理)を中心に作業しております。自宅ではカキ、モモ、ブドウの他に約15種類の果樹を作っております。



樹木医との出会いは果樹に関しては農協からの作業指導や防除暦を参考にしますが、樹木に関して

お客様に病気や害虫について聞かれてもわからないことが再々あり参考書をみている時に樹木医のことを知り勉強してみようと思いました。

挑戦する事、3度目で合格することが出来ました。(今回も不合格なら受験はやめようと！)

合格したものの未熟で樹勢回復の方法や治療法についてわからない点が多くあり、機会があるごとに研修会などに参加して勉強したいと思っています。どうかご指導をよろしくお願い致します。

(2)大賀 哲哉

この度、新しく(一社)日本樹木医会岡山県支部に入会させていただいた、第25期の大賀哲哉(オオガ テツヤ)と申します。私は昭和33年生まれ、出身は玉野市で現在勝央町にある県の森林研究所に勤務しております。



私が樹木医制度を初めて知ったのは、初めて森林研究所勤務になった平成6年、当時上司の三村さんが樹木医になられていたのが発端です。その頃、三村さんに同行し、新庄村のがい旋桜の不定根治療を見学に行ったことがあり、ピートモスを詰め込んで不定根を出させるという作業が非常に印象的で、ウレタン充填しか見たことのない私にとってはとても興味深いものでした。

その後、しばらく行政に移り樹木への関心も薄れていましたが、平成25年度から再び森林研究所に勤務するようになり、昨年2月に樹木医を受験してみようと思い立ち、現在に至っております。未熟者ですが今後ともよろしくお願いいたします。

5. 会員からの投稿

(1)治療事例 10期 古城富士夫(古城愛朋園)<http://www.kcv.ne.jp/~kaihoen/index.html>

平成19年井原市立芳井小学校のグラウンドの真ん中にあるシンジュに行った治療についてお話ししましょう。

当時葉量は減少し枝枯れが目立つ状態でした。樹体の衰退も問題でしたが、同等に問題であったのは、樹幹空洞部にフクロウが毎年営巣していたのが来なくなったことです。葉量の減少で外敵に発見されやすくなったためだと考えられました。

樹勢衰退の原因は、調査の結果 GL が元の位置より45cmも高くなっていました。表土を鋤取り土壌改良を15か所施しました。その上にパレットを敷き詰めホワイトロームを充填しました。そのことにより約15cmの空気の層を確保することができました。根元より、気温や気圧の変化で空気が移動する仕組みです。埋め戻すと元通りのグラウンドです。樹勢もだんだん回復し翌年にはフクロウが営巣に帰ってきました。



巨樹老木がそこに存在し続けるには、周りの人々の温かい思いがいつも寄り添っています。この事例の場合小学校のグラウンドの真ん中という他に例を見ないシチュエーションもあって卒業生の思い出に必ず登場します。また現在多くの子供たちと思い出をつむいでいます。人間のみならず文字通りその懷でフクロウを守っています。大いなる自然の力を感じざるを得ません。それらの関係にちょっぴり関われたことに感謝しています。



PS:先日フクロウの巣のメンテナンスを行いました。



(2)木のきもち ～気持ちのいい空間～ 小林 智

「ウィーン」「バリッ バリッ」「バサアーン」
チェーンソーの音が響きわたり、次々と枝が切り落とされていく。
その度に居た堪れなく一瞬目をそむけた。

新年早々、とある「鎮守の森」にはえている榎の大木の枝切り作業に樹木医として立ち会った。隣接畑地に葉や露が落ちて困るという地権者の要望による作業であった。

地域の歴史を見続けてきたであろう樹が人間の都合で何とも言えない姿に変わってしまった。お役所仕事のただの立ち会い人、何も出来なかった自分を今になって責めている。

失礼承知で見学中の地権者の方に聞いてみた

「もし、誰かが枝の出ている下の土地を購入したいと言ったら、どうされていましたか？」

「そうしてくれたらありがたかった。」

意外にも答えはすぐに返ってきた。皆、出来ることなら大事に残したいと思っているのであろう。要は手続きや金等々の問題もあり、計画段階で枝を残すという発想が出なかったのだろう。(障害・邪魔・迷惑)=(排除・伐採・撤去)という方程式しかないのだ。その主たる例が街路樹の管理作業ではないかと私は思う。毎年秋、幹線道路沿いの街路樹は「害路樹」とばかりに落葉前に全ての枝を落とす、いわゆる「丸坊主」作業が行われている。何の為にそこに木を植え、誰の為に切られてしまうのか。真夏に木



陰を提供してくれた事も忘れ、初めから植えなければいいのにとさえ思ってしまう作業後の悲しい樹形。おそらく樹々達は思っているに違いない「勝手に植えて、都合で勝手に切りやがって 放っておいてくれ !!」痛々しい樹形に変わってしまった街路樹を見る度に何とも言えない虚しさがこみ上げ「ごめんなさい」と話しかけてしまう。

我々人間は、生き物として太古の時代より自然に寄り添い、守られ、季節を感じて生きてきた生物である。特に日本人は自然の尊さをDNAに刻まれている人種であると思う。

高度経済成長期以降、デジタル化が進み、ボタン一つで何でも出来る世の中になりつつあるが心だけはアナログであり、人間のエゴだけでは決して自然に太刀打ち出来ないと常に考えていなければいけない気がする。(少なくとも私はそう考え思い、行動をしたい)

我々樹木医は病害虫を知り、治療方法や土壌改良技術を会得することはもちろんであるが、樹のスペシャリストとして自然界の代弁者という意識を持ち、多くの人達によりよい「環境」「空間」の提供、啓発をしていかなければならないと思う。それが我々樹木医の「使命」なのではないかと思う。

樹の気持ちを考え、樹が長生きする環境、空間を大切にすることは我々人間も生きやすい、気持ちのいい場となると私は信じます。

6. 連載

< 生命は化学反応か >

続・続『菌界』考 2015 Dec 記

ぼつぼつ樹来原稿かかとなーの2015師走のテーマは「絶滅危惧」か「葉の細胞に潜む菌界」か……。はたまた「限界暗期」か……。これらの命題を結ぶキーワードの閃き。

鬼の城・Field work スケッチ→

山道を歩きながら呟いた友人の言葉の意味。
「越智さん生命は、化学反応であると聞いたことがある。」

化学は最も苦手な科目だった私には、チンプンカ
ン・見当も想像も付かない世界。さらに追い討ちの一言「光合成も細胞の中に棲み分けてる菌の働きらしいよ」

無機物から有機物を生む光合成反応は化学反応。その反応をつかさどる器官が葉緑体。細胞中には二種類の菌が細胞内共生するという説。

その一つが葉緑体、もう一つがミトコンドリアで、共生しながら地球の植物達の核を構成して炭水化物を作り出している。ミトコンドリアは全ての生物の細胞内に共通してあるものの、葉緑体が細胞内共生しているのが植物界の特異性なのだと。

マジ〜動物界と植物界の違いはミクロレベルの菌界ワールドでは、細胞内に葉緑体を持っているかな
いかの違いなのか。光合成のルーツも元は菌界、そしてエネルギーの受け渡しは、化学反応。



樹木を構成する葉・花・実・根・幹の役割・働き。全て化学反応をベースに推測すれば、何か繋がっているのかの直感。

「菌界考」樹来創刊号「続・菌界考」樹来2号でも触れてきたように、樹木と菌根菌との数十億年にわたる進化の歴史。寄生・半共生・共存の関係も、その原点はシアノバクテリアに始まると言われる。光・水・大気の化学反応・・・そして、その核となるのが菌界だとすれば、土壌中の菌界ワールドも様々な病気との戦いも、なんか 理解不能ながら見えてくる宇宙があるような妄想に捕らわれる。

さらに生命が化学反応なら・・・土壌 pH も、風化母岩と生態系の関係も、気温も、水も光も、風も・・・化学肥料として使われる N・P・K・Mg の必要性も全て繋がってくる。

命の情報を伝える DNA を構成するタンパク質には微量でも不可欠な化学成分がある。さらに、これらの化学反応に必要なものは酵素なのだと。「酵素ってなんや～万田酵素しか知らんで～」

「※ビタミン・ジアスターゼも酵素なんだけど～」 「エーッ」の驚き。(※ビタミンは補酵素)

さらに「越智さん化学反応が進むためには、温度がキィーだよ」「ハア～」の絶望。

今まで、炭酸ガスと水と光があれば 米と麦とトウモロコシがあれば地球上の生命のエネルギー源はあると単純に考えて来た不明。「絶滅危惧」もダーウィニズム思考回路に化学反応を加えれば更に見えてくる世界があるような妄想にとりつかれる・・・2015年の師走晦日の日々。

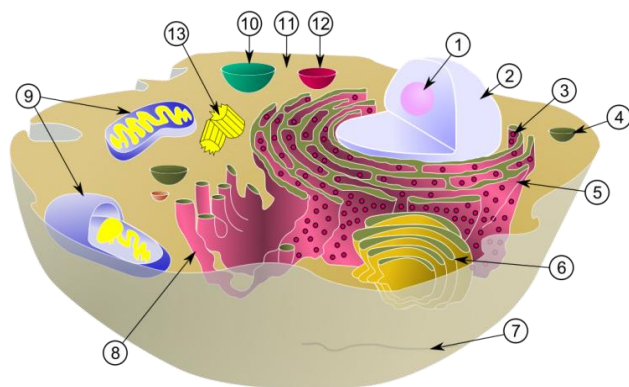
2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大

2. リンボク (バラ科) の葉裏の葉脈↓

村 智博士は、ゴルフ場の土の中の菌界ワールドからアベルメクチンを発見し、寄生虫感染症の治療法を確立した。「もっとまじめに化学を勉強してとば良かったな～」(笑)

ちなみに虹を構成する色の中の緑色は、光合成反応には使われない光波長の色が見えているという、このパラドックス。さらに秋の黄葉・紅葉のしくみ 春を彩る様々な花の色の違いでさえ化学反応の視点からの説明なら、なるほど～の不思議ワールド(#^#)

真核細胞の模式図 引用—Wikipedia ↓



- | |
|--|
| 1. 核小体 2. 細胞核 3. リボソーム 4. 小囊 5. 粗面小胞体
6. ゴルジ体 7. 細胞骨格 8. 滑面小胞体 9. ミトコンドリア
10. 液胞 11. 細胞質基質 12. リソソーム 13. 中心体 |
|--|



参考文献「植物の体の中では何が起きているのか」 嶋田幸久 萱原正嗣 著 ベレ出版
(文責 越智 和信)

7. 会員名簿及び賛助会員名簿会員名簿および賛助会員名簿

登録番号	登録期	氏 名	勤 務 先	役 職
69	1 期	山本利幸		
112	2 期	下川利之	樹木病害虫診断監理	
170	3 期	大山浪雄	西日本樹芸研究所	
217	3 期	原田照太	原田樹木管理	
340	5 期	国忠征美	グローバルグリーン・クニタダ	
572	8 期	越智和信	Studio 樹羅	
590	8 期	佐藤真也	佐藤真緑園	支部長
652	9 期	可児義郎		
743	10 期	古城富士夫	古城愛朋園	研修委員
817	11 期	片岡栄一	(株) 小山庭苑	副支部長
925	12 期	鈴木肇		
1116	13 期	山本國勝		
1030	13 期	久保滋則	(株) 武田芳翠園	
1141	14 期	魚井聖一	(株) 山都屋	
1314	15 期	時光邦憲	(公財) 岡山市公園協会	事務局
1520	17 期	蔵岡均		研修委員
1553	17 期	永富壽		
1621	18 期	石部友弘	(公財) 岡山市公園協会	会報編集委員
1856	20 期	猪雅人	(公財) 岡山市公園協会	
2004	21 期	小林智	庭智	
2169	22 期	中野聡	中野庭苑	会報編集委員
2182	22 期	二瀬洋平	井原市森林組合	
2212	23 期	石原祐軌	(独行) 森林総合研究所	
2356	24 期	梶原利博	岡山森林管理署	
2347	24 期	岡坂一司	(株) OFFICE YK21	
2465	25 期	大賀哲哉	岡山県農林水産総合センター森林研究所	
2503	25 期	重廣一成	赤岩氏シルバー人材センター本所山陽事業所	

賛助会員名	住 所	代表者等
(株)武田芳翠園	〒703-8238 岡山市中区住吉町 1-80	武田 光弘
(株)山本造園	〒701-0221 岡山市南区藤田 1331	山本 寛
(株)山都屋	〒703-8273 岡山市中区門田文化町 2-11-51	内山 淳
青木浩平	〒709-0876 岡山市東区瀬戸町光明谷 199-6	瀬戸内造園
武田浩晃	岡山市中区赤田 109-5 ポラリス E202	(株)ガーデン四季

8. 編集後記

平成27年から編集を担当することとなり、何とか「樹来 July」第3号の発刊にたどり着きました。この度の編集に当たり、投稿を快く受けてくださった会員の皆様にまずお礼を申し上げます。

編集作業を通じて、会員と話を重ねるたび、皆様の「樹」「自然」「生命」に対する「思い」を感じ、樹木医として積極的に活動している姿を、広報することの重要性を痛感しております。今後も「樹来 July」をより多くの人に読んでいただけるように、編集していきたいと考えております。次回の発行は、平成29年7月を予定しております。

編集（中野 石部）

事務局

〒700-0004

岡山市北区法界院3-1 半田山植物園内
(一般社団法人) 日本樹木医会岡山県支部

TEL 086-252-4183